

【凡例】

会社名(または刻印・煉瓦の仮称)


(印影)

(大阪窯業刻印を基準にしたおよその倍率)

A:工場所在地
B:工場存続期間
C:当該刻印使用時期
D:刻印採取物件
E:該物件所在地
F:該物件建造年
G:マッチング根拠
H:特記事項
※印影文字は似たフォントで代用したものがある。 ※出典略記は以下の通り。煉瓦史:水野信太郎『日本煉瓦史の研究』、集成:同『国内煉瓦刻印集成』(中部産業遺産研究会『産業遺産研究』第8号)、十条:八木司郎「十条駐屯地の赤煉瓦建造物群と使用されていた建築用赤煉瓦について」(東京産業考古学会報(正)No.33、続:No.35)


群馬県

**富岡製糸場”イリヤマ+田”
(山田某工場?)**




A:群馬県富岡市笹森神社前?
D:富岡製糸場ブリューナー館地下室
E:明治4年3月～同5年7月
G:文献(『集成』)
H:富岡製糸場建造物に使われている刻印の1つ。印影とA～E情報は『集成』より。

**富岡製糸場”山+二”
(葦塚直次郎工場?)**



A:群馬県富岡市笹森神社前
D:富岡製糸場東繭置場
E:明治4年3月～同5年7月
G:文献(『集成』)
H:富岡製糸場建造物に使われている刻印の1つ。印影、A～E情報は『集成』より。東繭置場ではこの他に「○」刻印も見つかっている。


小野里亀澄



A:群馬県前橋市岩神町
B:大正14年頃?
G:文献
H:『大日本商工録』大正14年版に屋号掲載。業種は「煉瓦建築請負人造石工事煉瓦製造」。煉瓦刻印としては未検出?

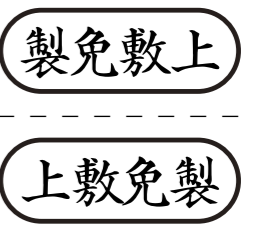
埼玉県

日本煉瓦製造(株)




A:埼玉県榛沢郡大寄村(→深谷郡上敷免村)
B:明治20年(1887)～平成18年(2006)
H:「東の横綱」日本煉瓦製造の社章印。最初期には東京府日本橋区箱崎町3に本社、同小網町2-1に分工場があった。明治40年頃日本橋区三代町6に本社移転、大正7年には南足立郡東瀬江村に亀有分工場を設置。大正12年頃には麴町区永楽町の日本工業倶楽部内に、昭和11年～15年頃には京橋区京橋西八丁堀2-18-2に本社を置いていた。

日本煉瓦製造(株)上敷免印




D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)226号棟
F:明治38年(1905)
G:印影、出土状況
H:日本煉瓦製造の刻印として著名な印。明治期に使用されたもので、旧東京砲兵工廠銃包製造所の同一建物からは左書き・右書きがともに検出されている(「十条」)。深谷市煉瓦史料館に判が残されている。

日本煉瓦製造(株)日煉印




D:日本煉瓦製造(深谷市)所有印
H:日本煉瓦製造煉瓦史料館に残されている刻印字母の一つ。「日本煉瓦製造」を縮めた二文字を左書きで刻んだもので、大正期に使用された(深谷市教育委員会制作「煉瓦ペンダント」解説より)。

日本煉瓦製造(株)日本印



D:東京芸大旧門柱、上野桜木町転石、上野駅前市街地花壇緑石ほか
G:印影
H:小判型に「日本」の文字。東京芸大旧門は煉瓦積みのモルタルの隙間からこの刻印が見える箇所がある。その他上野桜木町内の転石、上野駅前市街地の花壇の緑石などでこの刻印を確認した。昭和初期から終戦前まで使用された印か(八木司郎氏談)。

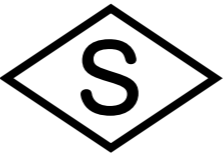
加瀬煉瓦製造所



A:北足立郡南平柳村
B:明治41年(1908)～昭和5年頃
G:文献
H:『大日本商工録』S3版に屋号掲載。煉瓦刻印としては未検出。


栃木県

下野煉瓦(株)?



A:下都賀郡野木村(S14:大字野木3324)
B:明治21年(1888)下野煉化製造会社→明治25年頃下野煉瓦(株)→昭和14年頃下野煉瓦工業(株)→昭和46年(株)シモレン→昭和47年製造中止
D:下野煉瓦ホフマン窯
G:文献(『煉瓦史』)
H:県下を代表する煉瓦工場。ホフマン窯が現存し国重要文化財に指定されている。菱Sマークは関西や九州でも見られるが関連は不明。

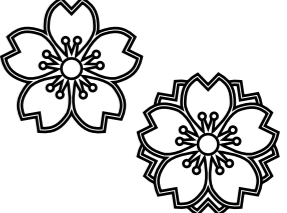
★刻印(下野煉瓦?)



D:下野煉瓦構内
G:文献(『集成』)
H:下野煉瓦構内で採取された刻印。同社の刻印か。★印の下に棒状の記号が入るパターンもあり。


東京都

小菅集治監




A:葛飾郡南綾瀬村大字小菅
B:明治5年(1872)盛煉社(製煉社)→明治12年小菅集治監窯→大正期まで製造?
H:明治5年に平松栄治郎によって始められた煉瓦製造を源流とし、後にウォートルスの指導が入りホフマン窯3基で銀座煉瓦街の煉瓦を製造。明治12年より小菅集治監の附属施設となり長く煉瓦製造が続けられた(大正10年頃には集治監煉瓦を販売する「小菅商会」があった。代表:諸井恒平)。

小菅集治監?




D:横浜フランス領事館煉瓦塀、十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)256号棟
F:明治27年(1894)、大正5～8年(1916～1919)
H:桜花の側視図を模したと思われる刻印。『煉瓦史』などではこれも小菅集治監の刻印と推定している。

石川島監獄



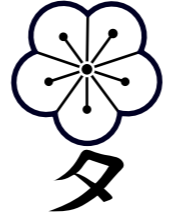
A:東京都中央区佃島
C:明治6年(1873)～明治28年9(1895)(煉瓦製造時期は不詳)
D:奈良少年刑務所展示室
H:江戸時代の人足寄場を起源とし、明治6年(1873)に懲役場、明治10年警視庁監獄所となる。明治28年(1895)巢鴨監獄に機能移転。同監獄署で製造されたとされる「石監」印の刻印煉瓦が、元・奈良少年刑務所の展示資料室に展示されていた。

日野煉瓦工場



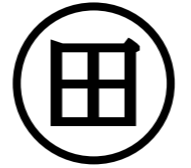
A:日野宿字下川原(現・東京都日野市)
B:明治20年(1886)～同22年
D:河野家寄贈煉瓦
H:工場主であった河野家で採取された煉瓦。プレス式で作られた煉瓦に“Hino Brick Works”の頭文字と考えられる3文字を刻む。当時建設中であった甲武鉄道へ製品を納入したらしい記録あり(清野利明「煉瓦に見た“多摩の近代化”」(『多摩のあゆみ』No.102(2001))。日野市立仲田小学校そばのモニュメントにこの煉瓦が使用されている。同社はカナ識別印も使用していたようである。

田中煉瓦工場




A:北豊島郡船方村→王子村舟方69→王子町船方137(現北区堀船4)
B:明治2年(1869)?～大正12年(1923)～昭和3年(1928)廃業
D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)234号棟
H:『十条』続によれば田中家が「旧北区郷土資料館に寄贈した煉瓦にこの逆さ梅刻印があるとのこと。十条駐屯地では添印「ホ」「へ」も見つかっている。桐生市有鄰館にも同刻印あり。

田中煉瓦工場




D:田中家庭敷石
G:印影、検出状況
H:工場跡地に建つ田中家の庭に敷かれている煉瓦から検出。印影や検出状況から田中煉瓦工場の使用印と推定される(東京都北区教育委員会文化財研究紀要別冊第十九集『増補改訂版 堀船地区田中家文書調査報告書』(平成30)。右「○タ」刻印も同)。田中煉瓦は大正12年に製造を止めたが、煉瓦取引業は昭和3年まで続いた。

田中煉瓦工場




D:田中家庭敷石
G:印影、検出状況
H:田中家庭の敷石から検出された印で、左刻印とともに田中煉瓦の使用印と考えられている。同所では他にも径12mmほどの“○”刻印が多数見つかっており、同工場の使用印である可能性が高い。なお田中煉瓦の屋号はヤマ+田であったが同形の刻印は見つかっていないとのこと(八木氏談)。

(推)千葉煉瓦工場




D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)234号棟ほか
F:大正5年(1916)
H:旧東京砲兵工廠銃包製造所建物からは各種のカナ刻印が見つかっているが、「チ」文字には漢数字の添印を有するバリエーションがあり、「チ」一文字が工場を示すものと推定される。当時東京府下に多くの分工場を有していた千葉煉瓦(株)の刻印か。

千葉煉瓦工場(第一工場?)



D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)234号棟
F:大正5年(1916)
H:府下で多数の煉瓦工場を運営した千葉家の使用印か。南足立郡宮城村の千葉煉瓦第一工場?(明治20年～大正14年頃操業)。

千葉煉瓦 屋号



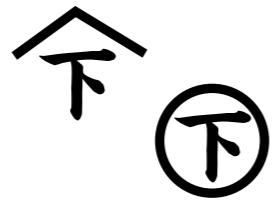
G:文献
H:『窯業名鑑』T14版に千葉勝次郎屋号として掲出。煉瓦刻印としては未検出？

(推) 齋藤煉瓦工場



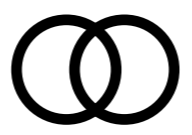
D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)185号棟ほか
F:明治38年(1905)～大正8年(1919)
G:印影、出土状況、社章
H:十条駐屯地の各建物で類似印が複数検出されている。複数あった齋藤煉瓦工場のいずれかが使用した印か。『十条』正統。江北村鹿浜のサイトー煉瓦(株)は○+サのマークを社章としていた記録がある(『大日本商工録』大正11年版)。

下川煉瓦



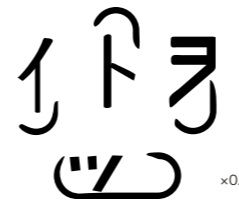
A:足立郡宮城村→南足立郡宮城村357
B:明治8年(1875)～大正14年(1925)
D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)122号棟、170号棟、185号棟
F:明治38年(1905)
H:旧東京砲兵工廠銃包製造所竣工時の建物から検出された刻印で、南足立郡宮城村の老舗工場・下川煉瓦の刻印と推定されている(『十条』統)。

金町製瓦(株)




A:南葛飾郡金町村
B:明治21年(1888)～同42年(1909)／～大正7年(1918)
D:荒川区佐藤病院壁ほか
E:荒川区西尾久5-7-1
H:遅くとも明治10年頃から煉瓦製造を行っていた細谷伊助の工場が発展・成立した会社。明治25年頃には機械成形を開始。同地工場は荒川改修に伴う土地整理で廃止されたが、後に南埼玉郡汐留村で再興し大正7年まで操業を続けた(日煉に買収され同社の汐留工場となる)。

金町製瓦(株)?




D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)200号棟、254号棟ほか
F:大正6年(1917)、7年
G:文献(『十条』統)
H:金釘流の細長いカナ文字、あるいは一、二、三と読める漢数字。文字に添う小判型の筋を伴うことが多い。『十条』では金町製瓦の刻印と推定している(永富注:類似のカナ文字が添えられた金町製瓦社章印が検出されている。"○○△"のような配置で、しっぺいの柄に作り付けた印である可能性あり。本刻印も同様)。

山本煉瓦



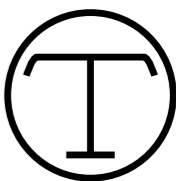
A:北豊島郡尾久村字上尾久(T8:北豊島郡下尾久2815)
B:明治31年(1898)～大正14年(1925)頃
D:佐藤病院煉瓦塀、十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)
E:佐藤病院;荒川区西尾久5-7-1
F:同;大正6年(1917)頃
H:佐藤病院壁にはこのタイプとともに□で「山本」の文字を囲ったものもある。同壁に山本煉瓦が製品を供給した記録あり。

山本煉瓦




D:荒川区佐藤病院壁
E:荒川区西尾久5-7-1
H:大正6年頃建設された壁に使用されている刻印。同壁や刻印については荒川ふるさと文化館『煉瓦のある風景 -あらかわの建築と煉瓦産業-』に情報あり。

東京煉瓦(株)




A:南足立郡江北村大字鹿浜→江北村大字宮城874
B:明治31年(1898)4月→大正6年宮城に移転?
D:十条駐屯地185号棟、東海道線焼津～金谷付近煉瓦構造物、初代宇津ノ谷隧道ほか
F:185号棟:明治38年(1905)
H:十条駐屯地185号棟解体ガラから大量に出土。明治30年代末の鉄道構造物・土木構造物で比較的頻繁に広範囲に見られる。大正6年に経営陣を一新し再出発した節あり。

東京煉瓦(株)




D:千住製絨所(菅谷遺跡)、十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)210号棟、神田神保町転石
H:神田神保町の料亭の角で検出したものは小判型の陰刻の底に「T.B」の文字を陰刻。小判縁形・T.Bを陰刻するタイプのほうが多い(十条駐屯地他)。『煉瓦のある風景』ではこれを東京煉瓦の刻印としている。十条駐屯地ではT8建造の建物から検出しており、大正期の使用印と推定される。

**"梅鉢+テ"刻印
(推) 寺本原煉瓦工場)**




A:北豊島郡王子町大字豊島
B:明治42年(1909)～
D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)254号棟、275号棟、283-1号棟
F:大正7年(1918)、大正8年、大正5年
H:旧東京砲兵工廠銃包製造所の大正期の建物から検出された刻印。梅鉢に「テ」の文字で、無添・漢数字一・二の3種が検出されている。王子町の寺本原煉瓦の刻印か。(c.f."○清"刻印)

**"○+清"刻印
(推) 寺本原煉瓦工場)**




D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)275号棟
F:大正8年(1919)
H:275号棟で"梅鉢+テ"刻印とともに検出。寺本原煉瓦の工場主・寺本清右衛門の"清"か。寺本原煉瓦は明治29年に創業した所王子煉瓦(王子煉化石)の後継工場の一つと考えられ、明治42年操業開始の記録がある(廃業年不明)。同じ頃足立区宮城でも煉瓦工場を創業している(寺本煉瓦)。

"○+西"刻印




D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)185号棟
F:明治38年(1905)
H:竣工時建造物より検出。同所では丸で字を囲むタイプの刻印が種々出土しているが、この○西、次の○ひ、他にも○カ、○オが見つかった(『十条』正統。サイズや書体の如何は不明)。

"○+ひ"刻印



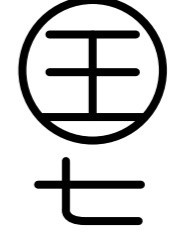
D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)226号棟
F:明治38年(1905)
H:十条駐屯地最初期の建造物より。検出数はわずか(『十条』統)。

(推) 中村煉瓦工場



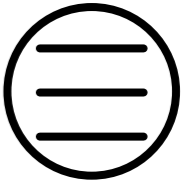
A:南足立郡江北村大字鹿浜
B:明治34年(1901)1月～明治37年頃
D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)タイヤ置き場
F:明治38年(1905)
H:旧建物跡で検出された刻印。検出例は1例のみで詳細は不明だが、江北村の中村煉瓦工場の使用印である可能性がある(『十条』統)。

(推) 王子煉化石製造所




A:北豊島郡王子村大字豊島
B:明治29年(1896)所王子煉瓦製造所→明治37頃王子煉化石製造所
D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)176号北側煙突
F:明治38年(1905)
H:「王」字を丸で囲む。十条駐屯地検出例は1例のみで詳細は不明だが、江北村の王子煉瓦工場の使用印である可能性がある(『十条』統)。

"○三"刻印



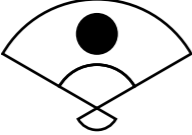
D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)185号棟
E:東京都北区十条台1-5-70
F:明治38年(1905)
H:十条駐屯地の複数の建物から検出されている刻印。いずれの建物も明治38年までに建造されたものであった。使用社は特定できていないが、○三マークは日本窯業、丸三耐火煉瓦など複数の耐火煉瓦製造所が使用していた。赤煉瓦の場合？

(推) 大阪窯業八王子工場




D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)
B:明治19年(1886)→同37年頃
H:細め大阪窯業マークで漢数字を囲む。旧東京砲兵工廠銃包製造所では210号棟など特定の建物で集中的に確認されている(『十条』統)。なお関西地方では漢数字を内包する刻印の検出例はなく、英数字、あるいは「ヲ」の字を内包するものが稀に見られる程度である。同分工場は窯業マークと「大阪窯業」の文字の入る舗装煉瓦も製造した。

扇型印



D:十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)210号棟
F:大正8年(1919)
H:旧東京砲兵工廠銃包製造所・210号棟から検出。使用社は不明だが、ほぼ同じマークを大阪市西区四貫島町の東洋耐火煉瓦(有)が商標登録している(大正5年:第79587号)。この商標登録は第14類(「他類に属せざる陶器、磁器、七宝製品、土器、瓦、煉瓦類」)に対して成立している。

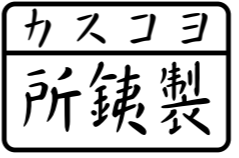
横浜ガス会社使用煉瓦



D:旧横浜ガス会社ガス発生炉基礎ほか
E:明治4年(1871)4月～同5年9月24日(旧暦)
G:文献(『集成』)
H:型枠を用いない「たたら成形」の煉瓦の小口に打刻。『集成』では所在地を本所瓦町か?とし東京産と推定している。竹橋陣営跡でも同刻印が見つかっており府下最古級の煉瓦刻印と推定される。横浜ガスはフランス人プレグランが関与。

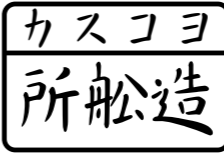
神奈川県

横須賀製鉄所製造煉瓦




A:神奈川県横須賀市
B:慶応2年(1866)6月15日～明治4年(1871)4月
D:観音崎灯台ほか
F:明治元年(1867)8月31日～同12月
G:印影、文献
H:観音崎砲台や造船所ドッグなど初期の煉瓦構造物から見つかっている刻印。印影、A～Fは『集成』より引用。平縁に段がある特異な形状で、フランス海軍の製法を踏襲した?

横須賀造船所製造煉瓦



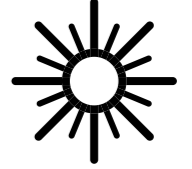
A:神奈川県横須賀市
B:明治4年(1871)4月～
D:横須賀製鉄所記念碑
G:印影、文献
H:左記刻印の継承パターン。明治4年4月に横須賀製鉄所→横須賀造船所と改名している。

ジェラルド煉瓦石製造所



A:現・横浜市中区元町(元町公園)
B:明治6年頃～同22年頃
D:製造所跡地(元町公園)
G:印影、文献
H:フランス人ジェラルドにより創業した煉瓦製造会社。プレス成形の赤・黒煉瓦や土管製造機を利用した空洞煉瓦などを製造。上記印はプレス成形煉瓦の平全面に押されている。

横浜煉瓦製造会社



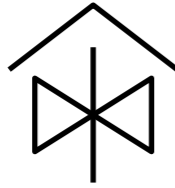
A:本社:横浜区相生町4-68、工場:橋樹郡川崎駅(現:川崎市幸区戸手町)
B:明治21年(1888)10月～同23年
D:横浜市中区元町公園出土煉瓦ほか
H:旭日に似たマーク。当時の新聞記事広告で横浜煉瓦製造会社の社章と判明している(出典失念…)。

御幸煉瓦製造所



A: 橋樹郡御幸村戸手 (M43: 戸手961) (現: 神奈川県川崎市)
B: 明治21年(1887)~大正10年(1921)頃
D: 横浜居留地下水道、横浜ガス局跡ほか
G: 文献(中野光将「関東南部における煉瓦刻印からみた生産と流通」(『立正史学』第124号))
H: 『集成』では小菅集治監印とするがG文献では御幸煉瓦製造所印とする(Bは工場表より同工場の操業時期)。カナの添印を有することが多い。

”ヤマ中”刻印

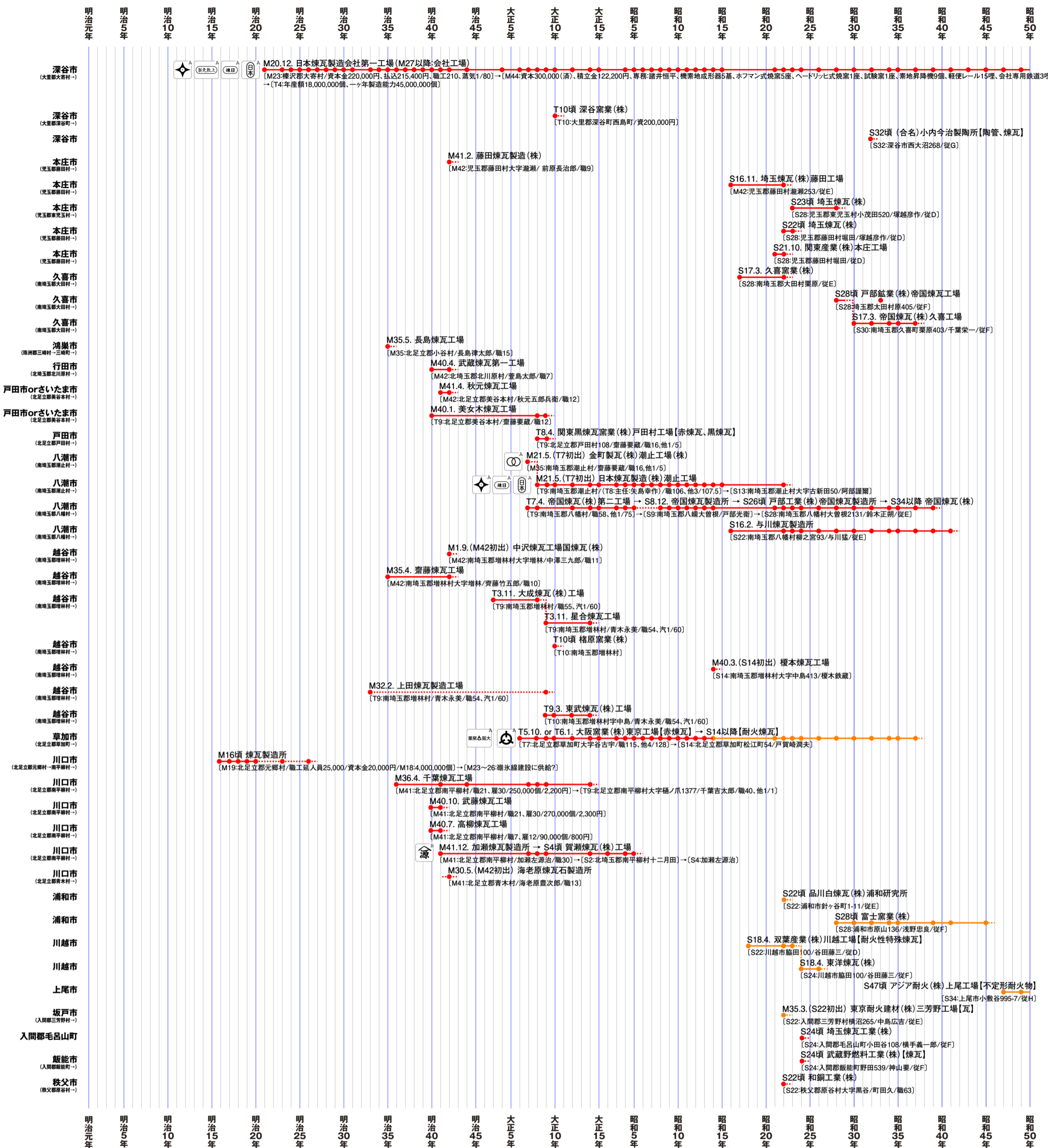


D: 十条駐屯地(旧東京砲兵工廠銃包製造所)244号棟、283号棟
F: 明治38年(1905)
H: ヤマ型に「中」のような記号の印。十条駐屯地では明治38年建造の244号棟、283号棟から検出されている(『十条』続)。横浜ガス局跡地でも同形刻印煉瓦が出土している(『集成』)。神奈川県橋樹郡川崎町久根の中島煉瓦工場?(M29.4~T2頃)。十条駐屯地構造物からは東京製品ばかり見つかったりするが。

山本商店煉瓦製造所

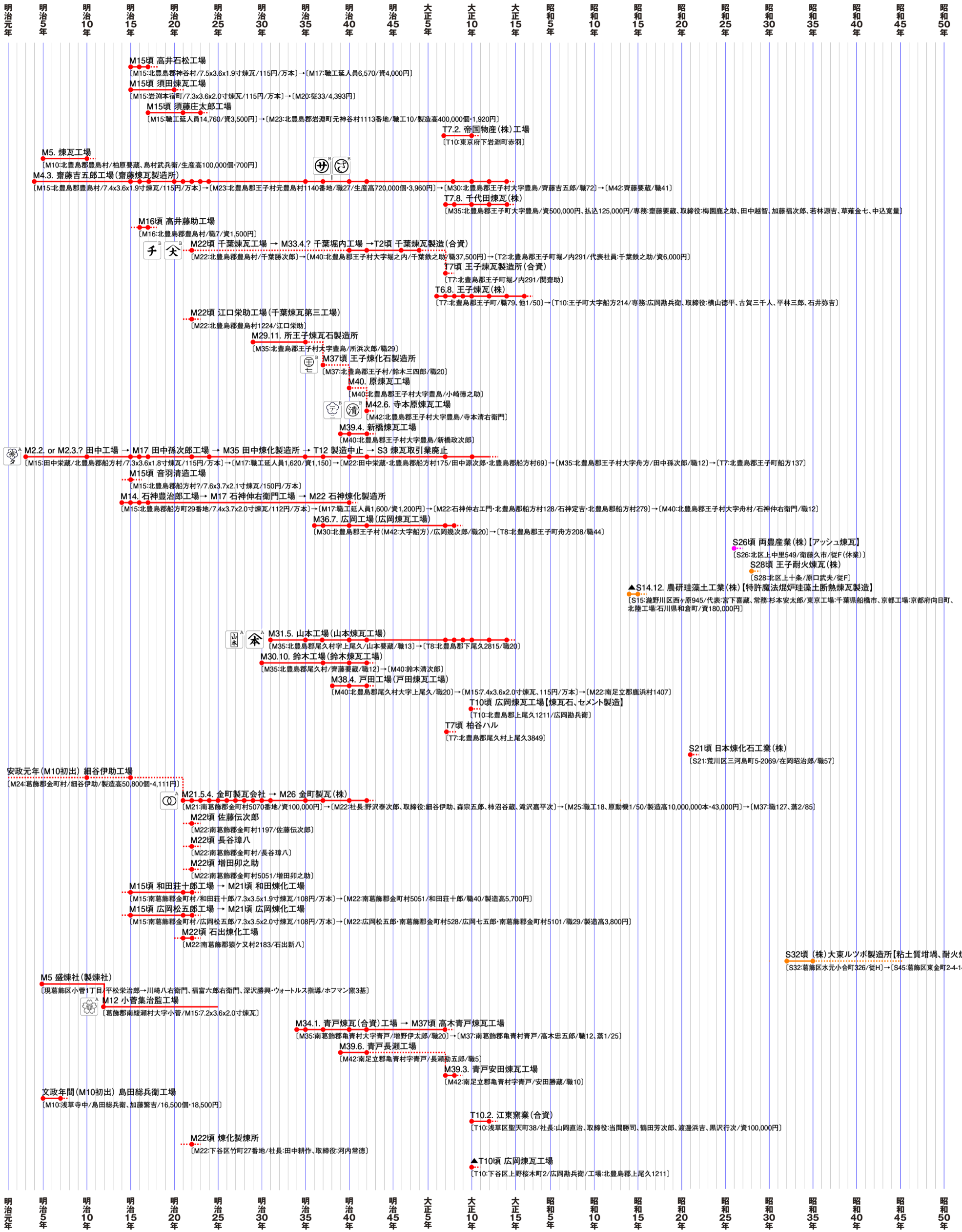


A: 橋樹郡町田村矢向(横浜市鶴見区矢向1610)
B: 大正5年(1916)~昭和11年(1936)頃
G: 文献
H: 『帝国商工信用録: 分冊』S11版に社章掲載。煉瓦刻印としては未検出?

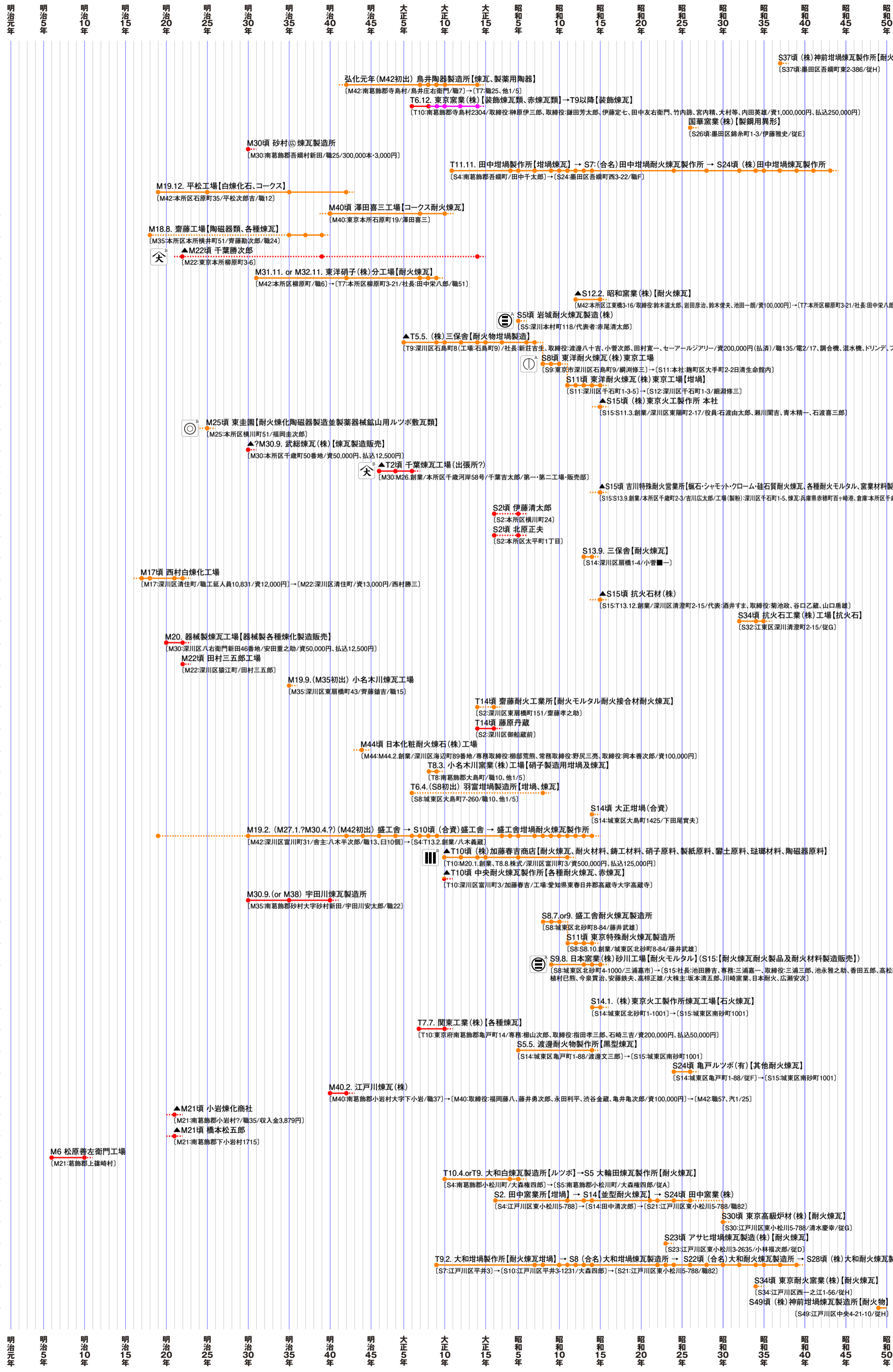


【データ出典】水野信太郎『日本煉瓦史の研究』、埼玉県統計書〔明治18、20、23、24、25、26、27、28、29、30、31、33、34、35、36、37、38、39、41〕、工場通覧〔明治35、40、42、大正8、10、昭和4、7、9、10、11、12、13、14、15、16、22、24、25、27、29、31、33、35、37、39、41、43、45、47、49、51、53〕、大日本商工録〔大正7-8、11、14、昭和3、6、18〕、窯業銘鑑〔大正14〕、全国工場鑑山一覽〔昭和2〕、全国工場鑑山事業場名簿〔昭和22〕、日本工業要鑑〔第3、4、5、6、7、8、10、12、14、16、17、19、26、27版〕、小野田滋『鉄道と煉瓦』

埼玉県下煉瓦工場の消長

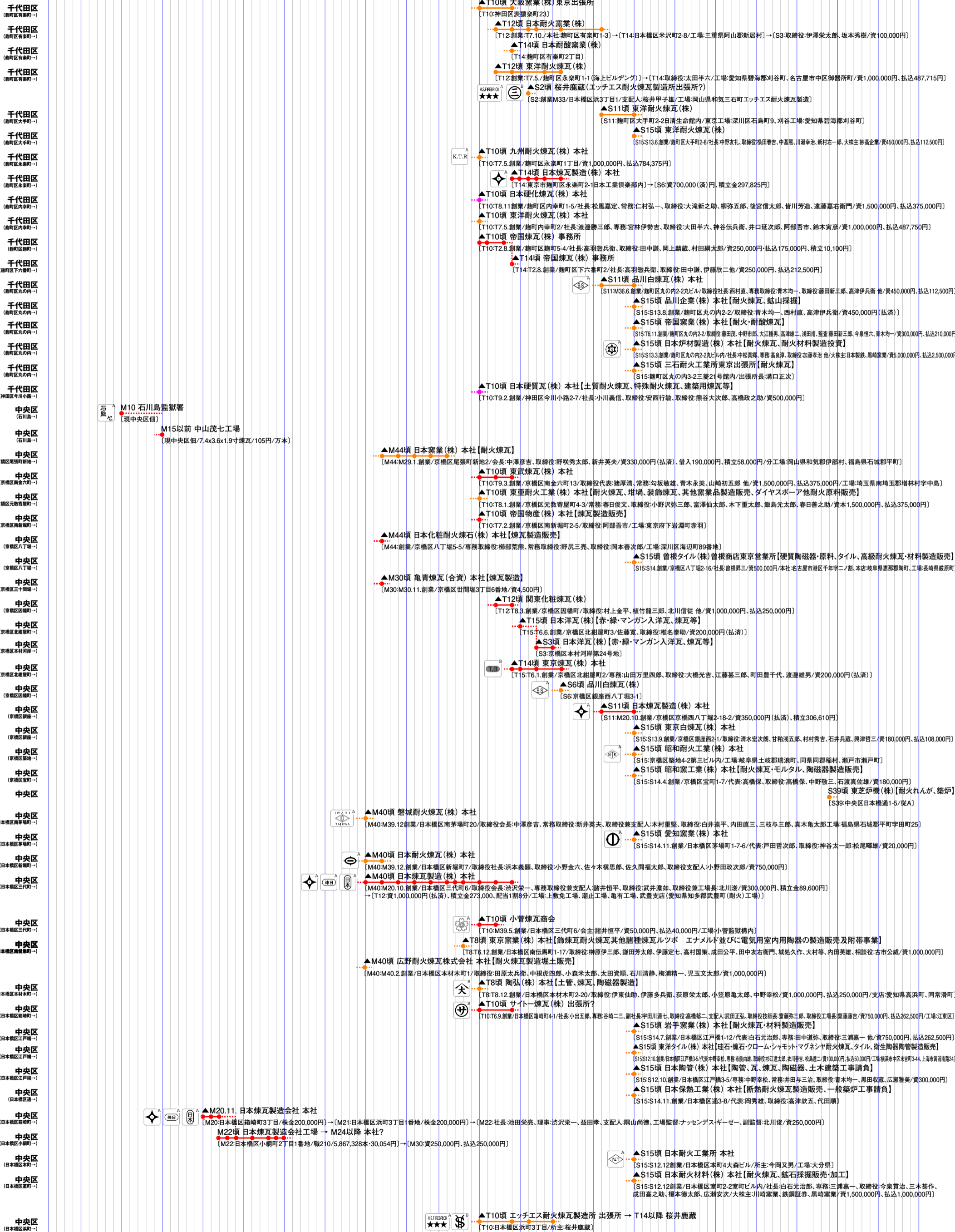


東京府下煉瓦工場の消長(2)

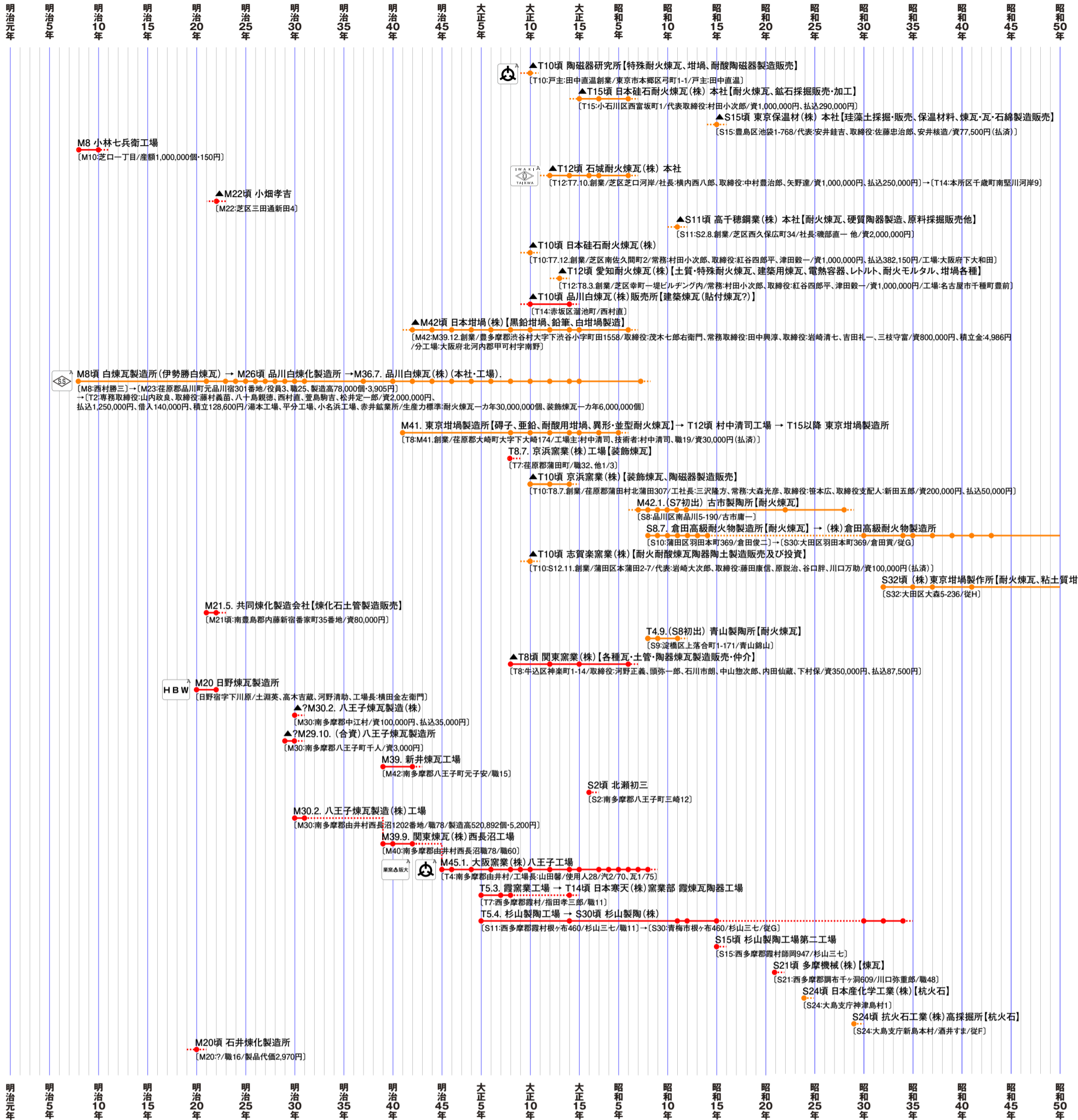


東京府下煉瓦工場の消長(3)

明治元年 明治5年 明治10年 明治15年 明治20年 明治25年 明治30年 明治35年 明治40年 明治45年 大正5年 大正10年 大正15年 昭和5年 昭和10年 昭和15年 昭和20年 昭和25年 昭和30年 昭和35年 昭和40年 昭和45年 昭和50年

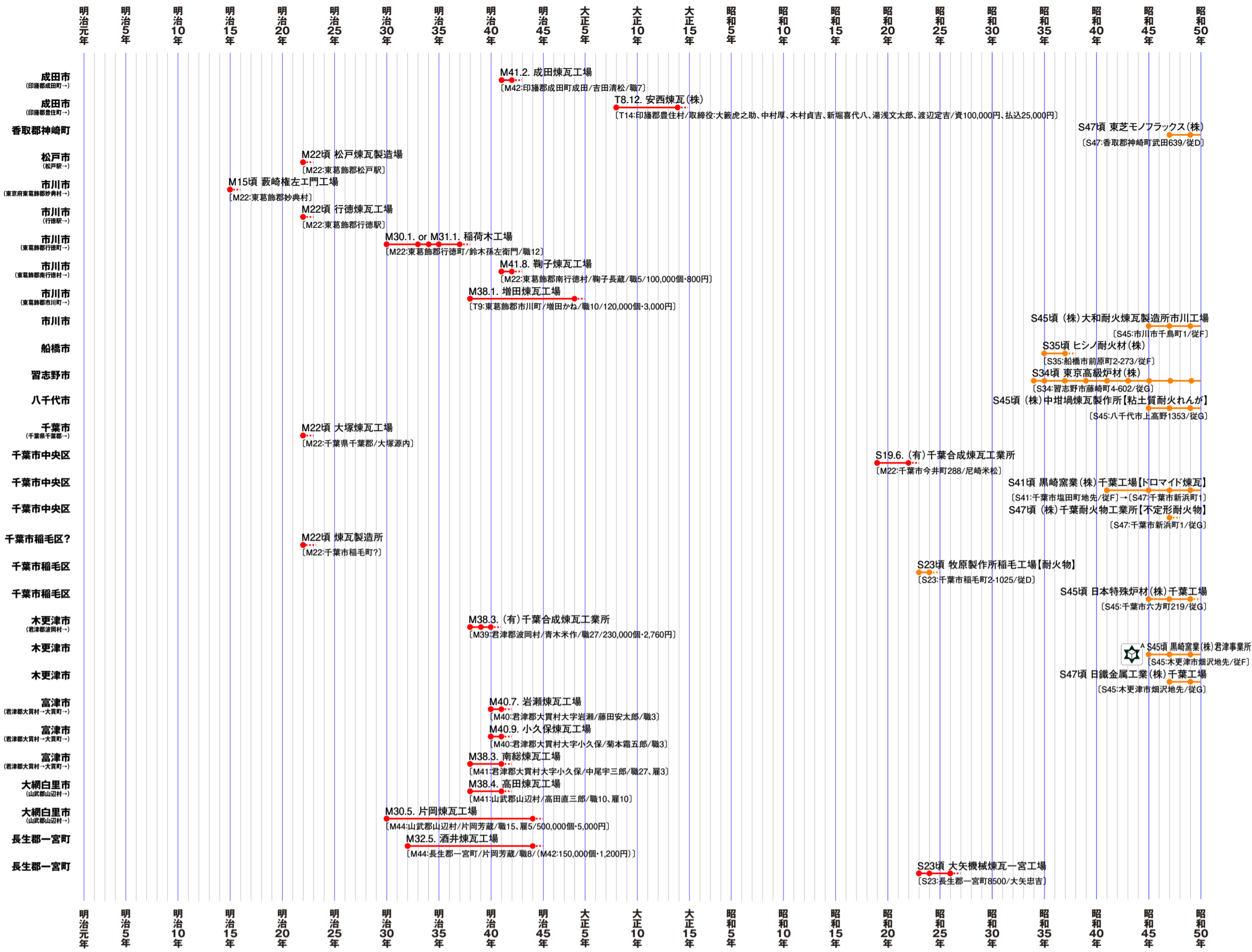


東京府下煉瓦工場の消長(4)



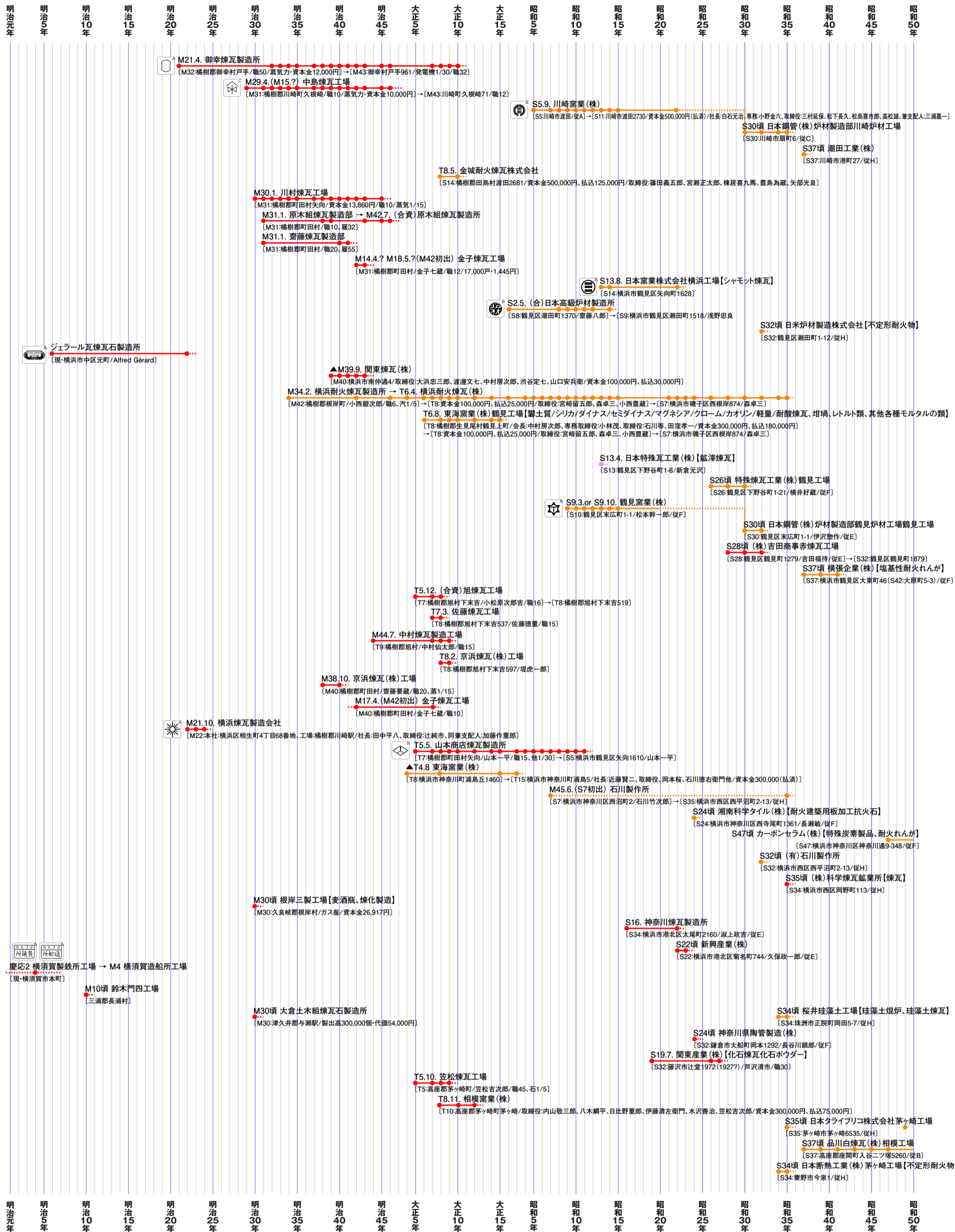
東京府下煉瓦工場の消長(5)

【データ出典】水野信太郎『日本煉瓦史の研究』、明治十年内国勧業博覧会出品解説、林糾四郎『煉瓦石試験表』(『建築雑誌』No.1, M20.1.号)、東京府統計書(明治16, 17, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31)、工場通覧(明治35, 40, 42, 大正8, 10, 昭和4, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 22, 24, 25, 27, 29, 31, 33, 35, 37, 39, 41, 43, 45, 47, 49, 51, 53)、大日本商工録(大正7-8, 11, 14, 昭和3, 6, 18)、窯業銘鑑(大正14)、帝國商工信用録(大正3)、全国工場鑑山一覽(昭和2)、全国工場鑑山事業場名簿(昭和22)、日本工業要鑑(第2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 12, 14, 16, 17, 19, 26, 27版)、日本帝國興業要覽、日本全国商工人名録、荒川区教育委員会『煉瓦のある風景』、清野利明『煉瓦に見た“多摩の近代化”』(『多摩のあゆみ』No.102)、東京都北区教育委員会『堀船地区田中煉瓦文書調査報告書』(平成30)、八木司郎『十条駐屯地の赤煉瓦建造物群と使用されていた建築用赤煉瓦について』(東京産業考古学会報『産業考古学』(正: No.33, 続: No.35))



千葉県下煉瓦工場の消長

【データ出典】林糾四郎「煉瓦石試験表」(『建築雑誌』No.1, M20.1号)、日本帝国興業要覧、千葉県統計書(明治33、34、35、39、40、41、42、44、大正4)、工場通覧(明治37、40、42、大正8、10、昭和22、24、25、27、29、35、37、39、41、43、45、47、49、51、53)、大日本商工録(大正7-8、11、14、昭和3、6、18)、帝国商工信用録(大正3)、窯業銘鑑(大正14)、全国工場鑑(昭和22)、日本工業要覧(第12、14、16、17、19、26、27版)、日本帝国興業要覧



神奈川県下煉瓦工場の消長

【データ出典】水野信太郎『日本煉瓦史の研究』、横須賀市作成パンフレット、明治十年内国勸業博覧会出品解説、日本帝國興業要覧、神奈川県統計書(明治22-23、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、大正1、2)、工場通覧(明治35、40、42、大正8、9、10、昭和4、7、9、10、11、12、13、14、15、16、22、24、25、27、29、31、33、35、37、39、41、43、49、51)、大日本商工録(大正7-8、昭和5、7)、窯業銘鑑(大正14)、帝國商工信用録(昭和14)、全国工場鑑山名簿(昭和12)、全国工場鑑山事業場名簿(昭和22)、日本工業要覧(第2、3、4、7、8、10、12、14、16、17、19、26、27版)、帝國商工録分冊(S11版)